

海とにんげん & SOS

2025. 9.30 Vol.50



海の博物館「伊勢湾のゴミ」の展示

伊勢湾の「ゴミ問題」

写真は、鳥羽市立海の博物館のA館2階の「海の汚染SOSのコーナー」に新たに設けた「伊勢湾のゴミ問題」の展示です。毎年、伊勢湾内の漂着するゴミは11,000トン、そのうち三重県沿岸へは約7,800トン、さらに鳥羽の海岸には約5,000トン、そして答志島奈佐の浜へ約3,000トンが漂着する、という調査報告書を参考に展示しました。

左端のパネルは「伊勢湾に入った河川水の流れ」、その横のパネルは主な河川河口部からペットボトルを流した「漂流ペットボトル調査」、右端のパネルは「海岸別の漂着ゴミの量」を紹介したもので、伊勢湾を南下する海流にのってゴミが鳥羽にやってくるなどがわかりま

す。また答志島の「桃取漁港に漂着した流木群」、「桃取漁港の漂着ゴミ」、「奈佐の浜に漂着したゴミ」、「漂着ゴミを処理する桃取の人々」、「奈佐の浜の清掃作業」（2枚）、桃取地区の「ノリ漁場の被害」（2枚）の計8枚の写真を展示、漂着ゴミ被害の実情も紹介しました。

海の博物館のある大古半島の海岸を歩くと、使い捨てライター、発泡スチロール破片、プラスチック容器、ペットボトル、アルミ缶、プラスチックの漁具類などが見つかり、その一部を拾ってきて漂着ゴミの実物も展示し、身近なゴミが漂着していることを知ってもらうことにしました。さらに森誠人さん（暁中学校卒業生）が伊勢湾の海岸で採取した「軟質プラスチックの破片」、「硬質プラスチックの破片」、「発泡スチロールの破片」、「人工芝の破片」、「レジンペレット」、「肥料カプセル」の6種類のマイクロプラスチックを展示して、マイクロプラスチックが伊勢湾に漂流し、海岸に漂着していることを伝えています。

ウナギのはなし 1 2～4P	鳥羽市小浜「南無阿弥陀仏」の碑 その③ 6～7P
東京大学名誉教授 大竹二雄	海の博物館 所蔵資料出張中 ①
写真展「海女たちのまなざし ～鳥羽志摩、昭和の海景」 5P	国立民族学博物館 7P